

さみしい夜の句会報 第90号 (2022. 11. 6-2022. 11. 13)

- ◆ 参加者: 蜜 IZU、しまねくくん、池田吉輝 Kubotahiroko、ゆりのは
なこ、麻丹 emi、風池陽一、さー、SYUSYA、花野玖、人見武一、日下
昊、内山晶生、森内詩紋、西脇祥貴、雪の空 SOU、A、わたしのみらこ、
とるばとる、元さん、宮坂葵哲、石原とつき、コネコノビッチ、西
沢葉火、正念亭若知古、おかもとかも、あ、徳道かつみ、まいける、
白水ま衣、石川聡、さ、汐田大輝、菊池洋勝、海馬、涼、棚場田敦也、
まつりへきん、柘秘密子、のこりか庵、抹茶金魚、藤井阜、岡村知昭、
HAKUBIKI、望月華、しづとむ、柗川零ノ、雷 (らじ)、金瀬蓬雄、橘月
子、蔭一郎、むくみんママ、水の眠り、星野響、てくてく、せば、電
車侍、あんこ、雪上牡丹餅、水須ゆき子、豆、ちゅんすけ、高良
俊礼、睦月ヨシ、阿笠香奈、RYU、sen、雲上晴也、大野清瀬、お気楽草
紙、馬勝、日月星香、木之下ゆうり、直美、風斗 Kazeto、MIVA、Tomoko、
鷺沼くぬぎ、上峰子、桔梗童、鴨川ねぎ、高木タツオ、ピッピ、さこ
(砂狐)、たろりずむ、田宮、輪井ゆう、みや、水也、涼閑、犬定住
佳、土方あゆみ、U・S・S、寫りす、檜崎進弘、齋藤清美、はる、月波
与生(九八名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

目の前を Lie と Life で舗装され Kubotahiroko
ニ枚ずつ枯葉を留めるホッチキス しまねくくん
逃げ腰は新生活に欠かせない Ryu sen
本能でハッピーセット買いました 雪上牡丹餅
そっと待つ友情に似たカロナール さー
手の甲に nakamahazure と筆記体 高木タツオ
綿棒と六角レンチの中間点 おかもとかも
上顎にナン張り付いたまま火葬 たろりずむ

パッチテストの結果芒のアレルギー 菊池洋勝
僕らには古賀新一がついている！ 徳道かづみ
漬物になる瞬間を見逃した おかもとかも

胎内を冷やして冬の月の客 IZU

魂の要素としての冬景色 IZU

Stay Foolish と鳴く兎林檎 白水ま衣

太陽と月の間に立つ案山子 しまねこくん

月蝕の間は石のラフランス しまねこくん

小太りで労務者風の魔法陣 馬勝

耳語のほうへ寝返りを皆既月食 藤井阜

カーテン越しの泣く声秋の金魚かな 菊池洋勝

かたくななくちびるひらき冬という IZU

孤独ではないジャンルだ敵がいる 徳道かづみ

マラソンが抜けたら下へ落としなさい おかもとかも

それなのにいまだきいろい洗面器 岡村知昭

冬だからこそ読めない駅名でトイレ 石原とつき

田んぼから二羽飛び立てばモノローグ 抹茶金魚

YMOをみたらし団子と書き換える 藤井阜

どんどん食ううどんで編んだ帽子まで 海馬

晩秋の口に合はない歯磨き粉 菊池洋勝

謀られて揚げしゅうまいになる狐 汐田大輝

千の手で千の枯葉を裏返す しまねこくん

団栗に顔描き足してから捨てる しまねこくん

セラピーが進む、枯葉の句を詠んで IZU

嗅ぎ慣れた毛布の中の華膏の国 花野玖

行く先を告げないままに沈む月 涼閑

ふり出しに戻れないまま虹を越え さこ

凡の字は種を抱く中島みゆき 西脇祥貴

猥談の片手にいじましいピストル 西脇祥貴

理由なき空つぼの闇でクリップ崩す 蜜
小鳥たち我が生徒ごと雲散らし 池田吉輝
君とみた彩雲 刹那、時を超え 麻丹 眞
新米や掬いあげたき手のひらに 風池陽一
冬泉や坐に加へたきベルイマン STAYU
タイムラインが月に喰われてく 内山晶生
失恋をする前に散る冬木立 宮坂変哲
今夜の月はやさしい猫の目だ コネコノビッチ
けいこうとう に ひえきった あーけーど 若知古
雪野から貴女を探す雪の日に ゆりのはなこ
単管に大根装填するトルソ あ
慰め会しよ まいける
うおうお光る秋も長崎さかのまち 石川聡
風呂で寝て鼻から湯飲み飛び起きる 涼
ボロを着て走る鉄橋 生きてたよ まつりぺきん
玉ねぎの雪白の肌両断す のこりか庵
多分ボク 携帯依存 気づかない HAKUBIKI
冷めた顔夜に染められ硝子越し 柝川零ト
矢印をたどりそこねて鳩に会う 雷(らい)
アポなしでいつでも逢ってくれる風 金瀬達雄
偽物を倒したいから笑ってる 橘月子
友の「Eメール」が壊れメールで悲しいとくる夜 むくみんママ
誤字という言い訳 水の眠り
りんどうがまたも後ろの正面に 星野響
旗竿地 理想郷への入り口 てくてく
オリオンを見上ぐ世界に僕ひとり せば
近所の池から海女が浮かび上がってきた 電車侍
戸袋に蜂おたがいに怖がって 水須ゆき子
青いレモン齧りもういちどプラトニックラブ 眞
ツイートはせずに毛先をツンツンす ちゆんすけ
生きたいの死にたいの冬の虹淡し ㄣ

銃弾の加熱に付いてくる訛り 高良俊礼
メタファアのファアから文字が溢れてく 睦月ヨシ
誰かのための光を灯す 阿笠香奈
巻き髪が既に気付いているプール 西沢葉火
ペイズリーに潜む花屋、肉屋 Ryūsen
冬はじめ戦国以来の蝕の月 のこりか庵
段段を見上げるだけの冬初め 雲上晴也
千チでありハハであるけど冬木立 木野清瀬
ゆるキヤラのゆるくない目に冴ゆる月 お気楽草紙
また来たと去年も言った青星 日月星香
菅原の獅子仰ぎ見て空青し てくてく
欠けたもの同士見つめ合ってら しろとも
ふにやふにやの矢印ひとつ掴めない MIYA
帰省終わり 無口になった吊るし柿 Tomoko
破線の間一つずつ埋め冬に入る 鷺沼くぬぎ
刈り取った文字らよ冬が来てしまう 上峰子
温くても薄着は辛い初冬では 黎明
溜め櫛の底に澱んだ悲しみに 鴨川ねぎ
ワンチーム 世間の反応 「これ勘当」 ピッピ
どんぐりとアドラー心理学が転がっている Hina
秋の空昏く発光目が眩む 輪井ゆう
若死にの友は生命線長し 宮坂変哲
動かない景色を眺め日は暮れる 式定住佳
地下で買うゼレンスキーと同じシャツ 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

羊水に飽きてきた頃雪が降りもう最期までこの町という
しろとも

姿見の位置をずらせば失くしたと思つた川が流れつづける
蔭一郎

動物はもうこれ以上飼わないの日に背を向けて植える植物
とるぼどーる

放課後の音楽室に現れたセーラー服に剣道の面 蔭一郎
型番の違う私の履歴書は月曜の朝 燃えるゴミに出す
し
ろとも

月食を見てる時、あなたを思い出さなかつたことを知つた
朝 わたしのみらい

低浮上 嶺に花咲く朱菊に盃 我眼下に地雷無し 人見弐

一 サドルの代わりにブロッコリーだと手ぬるいわカリフラワ
ーにしとけ 日下昊

切るべきか切らざるべきか全身にきつく絡んだイチゴのラ
ンナー 森内詩紋

投げつけるわたしの重い礫たち優しい想い包まれ返る 雪
の空 2023.4

青年よ硝煙燻る空に発ち穏やかな時に手向けの華を 柗秘
密子

お前は両手にバラの花束を抱えてなお死にたいとか言うの
か 望月華

イルミネーション絶対照らすなツリーの星が好きだったわ
たしを あんこ

渋滞の始まりは老婆の車で東名高速春うらら 人見弐一
欠けてなお月の光は戻るのに二人の心薄月のまま 木之下
ゆうり

さらさらと流れてく川、記憶、舟 こない電車を待ってい
る夜 みや

散りぎわの真つ赤にゆれるもみじの美それは優しい風のい
たずら 元さん

◆ 詩

私の血はくらい夜の海のように
何者かがぎらついた牙を研いでいながら也を潜め
莫大な無を孕んでいるかのように荒涼としている
ああとなたか教えてくれ
やたらに内側から叩きつけるものの正体を（棚場田敦也）

欠け欠けて

戻ると思わば

見られしも

いにしえの人

如何にか想わん （直美）

少し言っただけ迷うけど

お酒やめて1〜2年が立つ。

だけど寂しい夜は一人酒が恋しくなってきました。久しぶりに飲みたい気分です。でも我慢致します。1〜2年の成果を無駄にするわけにはいかないしなあ…。（風斗 Kazeto）

夜が明ければ、また一日をはじめなくてはいけなくて、私はそれをつつがなくこなせなくて、死にたくなるのだろう。

（望月華）

◆ 作品評から

さよなら友達がほしかったわたし あわい花

〜未婚男性の半数は37歳までに亡くなる事実があります。原因は孤独 (Loneliness)。回避するには川柳を始めるのがいいですよ。始めたい人は連絡下さい。（月波与生）

レシートの裏で小さく芋煮会　しまねこくん

　　「芋煮会」といえば山形であるが仙台に住んでいた頃は山形とは違う味の芋煮会だった。青森県では豚汁を食べていた。「レシートの裏」はどんな芋煮会だろうか。(月波与生)

投げつけるわたしの重い礫たち優しい包まれ返る　雪
の空そら そら

　　「素敵な言葉ありがとうございます。またお読みしますね(土方あゆみ)」

月蝕の間は石のラフランス　しまねこくん

　　「月の光ならラ・フランスを、冷えて美味しい果実に見せてくれるでしょう。だけど月蝕の赤黒い月は、ラ・フランスを石の色にしています。固く閉ざした果実。ほんとうの私。それも束の間。(西沢葉火)」

冬泉や坐に加へたきベルイマン　syusyu

　　「映画作家イングマル・ベルイマン。『処女の泉』は代表作のひとつ。『ある結婚の風景』では5時間のほとんどが、向き合う夫婦の会話だった。スウェーデンの冷たい景色。ベルイマンなら私たち二人の冷たい食卓も、ドラマにしてくれるでしょうか。(西沢葉火)」

満月は生殖器から欠けてゆく　橘月子

　　「女性が川柳をわやにした」と言ったのは柏原幻四郎師。女性の多い句会で「生殖器」の句は出しにくいよね、という雰囲気表現の場を後退させてはいないか。(月波与生)

天井に高い高いの跡がある たろりずむ

　　その跡をみるのがとても怖い。高い高いをされた幼子の笑い声と天井の窪みのコントラスト。読む者によつて違う映像を匂は見せる。 (月波与生)

魂の要素としての冬景色 INU

　　～およそヴィクトリア朝の英国の夜かな？

と思つたらチェコの画家でした。

南欧はどうかは知らないけど、欧州の真ん中から北欧あたりは、特に夜が長い印象があります。特に冬。

欧州でもメキシコ湾流が当たる場所では、比較的暖かいイメージですかね。(D・Gao)

青いレモン齧りもういちどプラトニッククラブ ESG

　　～老いたら皆プラトニックに戻る(烏りす)

凡の字は種を抱く中島みゆき 西脇祥貴

　　～非凡の凡ですね。(檜崎進弘)

猥談の片手にいじましいピストル 西脇祥貴

　　～確かにピストルには性的なイメージがあります。セックス・ピストルズというまんまの名前のバンドもありました。いじましいというより過激でしたが。(檜崎進弘)

散りざわの真っ赤にゆれるもみじの美それは優しい風の
たずら 元さん

　　～こんには、素敵な短歌ですね(齋藤清美)

アポなしでいつでも逢ってくれる風 金瀬達雄

　　～うまいなあ(笑) (はる)

愛人の検索履歴文化の日 馬勝

♪愛人⇔文化の日で互いの言葉を深めている。こういう句を読むと「裏サラリーマン川柳コンテスト」を開催したくなってくる。(月波与生)

手塚治虫が直喩であった頃の空 白水ま衣

♪手塚治虫は一貫して人間の汚い部分を描き続けた人だと思う。没して33年。人間は手塚が描いた以上に下品で卑しい生き物になってしまった。(月波与生)